

《横浜市感染症臨時情報》風しん第17報

風しん患者報告数が500人を超えました。

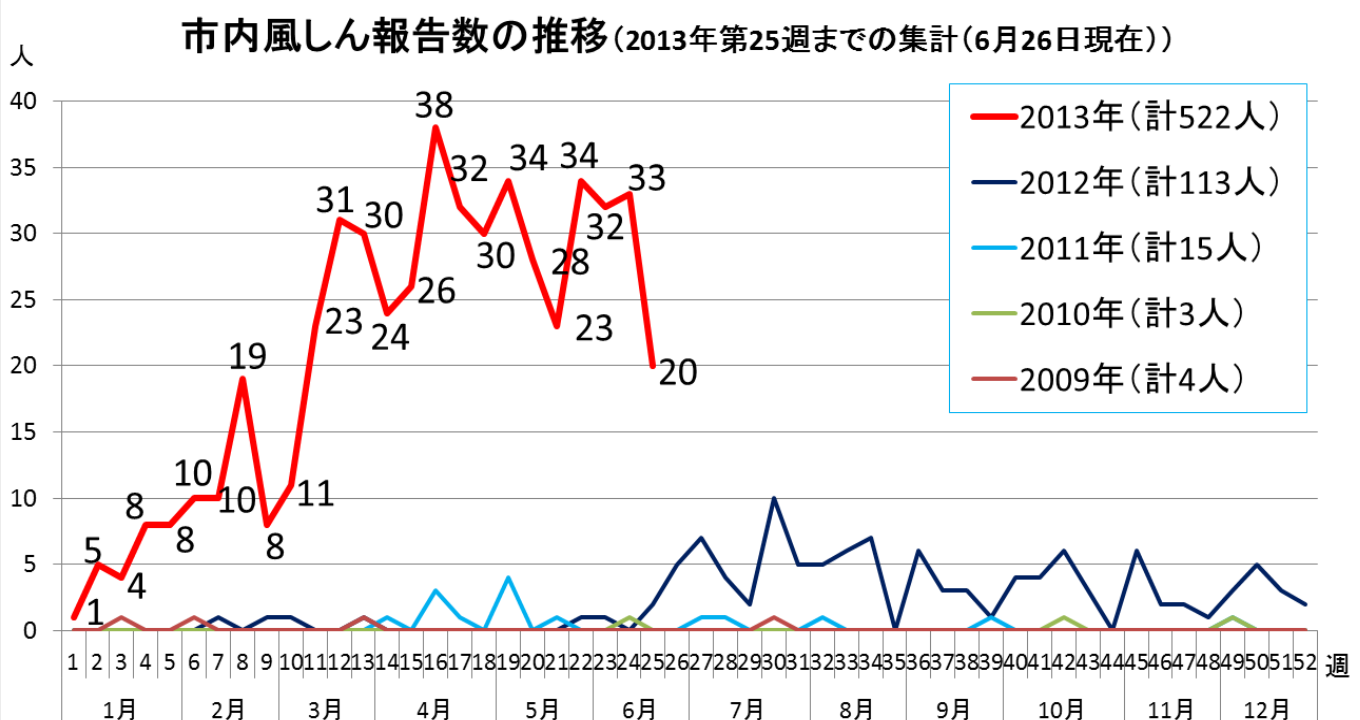
- ◇ **女性患者の割合が漸増**しています。
- ◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風しんにかかると、白内障、先天性心疾患、難聴などを主な症状とする「**先天性風しん症候群**」の子どもが生まれる可能性があります。
- ◇ 流行の中心である、20～40歳代男性の予防接種が流行阻止に重要です。特に、**妊婦さんと接する家族や周囲の方(友人や職場の同僚等)**は、予防接種を受けましょう。
- ◇ 「**妊娠を予定・希望している女性**」、「**妊娠している女性の夫**」を対象に予防接種の助成※を実施しています。

※ 横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

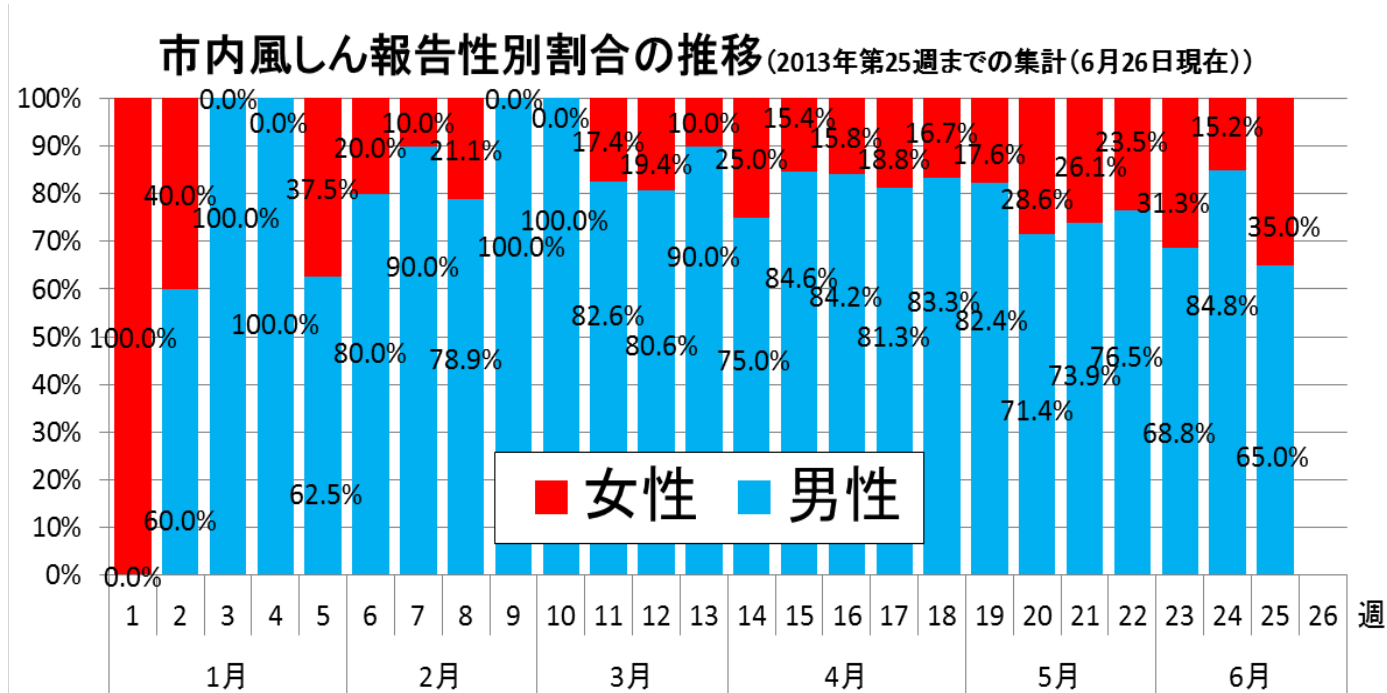
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>

風しんの主な症状は、発熱とほぼ同時に出る発疹、耳の後部のリンパ節の腫れなどです。3日前後で解熱とともに発疹も消失します。気になる症状が現れたときには、必ず受診し、きちんと診断を受けましょう。

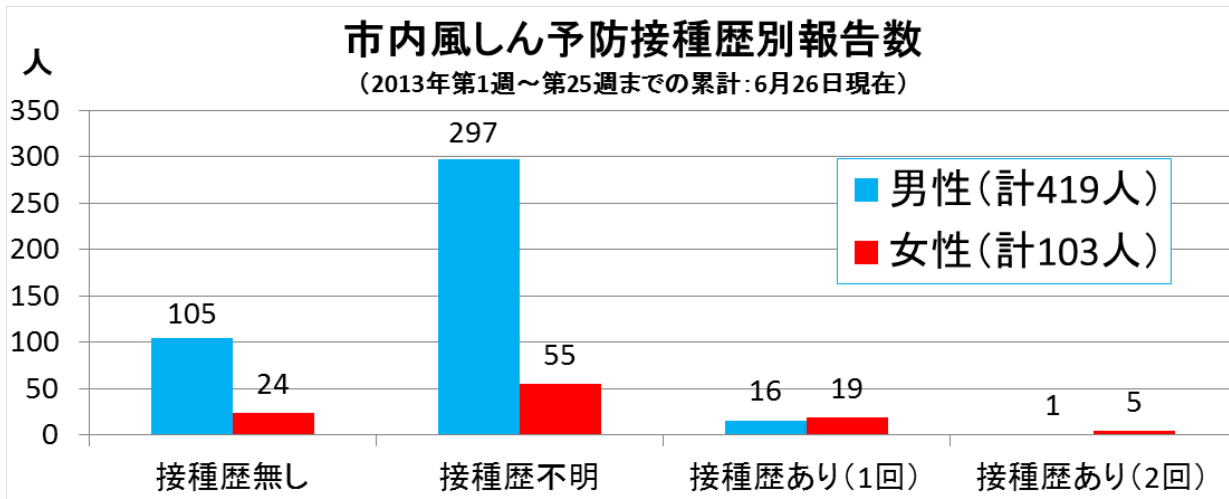
- 1 市内流行状況:今年の初めから第25週(6/17～23)までの患者報告数累計が522人となりました。依然として毎週の報告が続いています。



2 性別割合の推移:依然として男性が多くを占めていますが、女性患者の割合が漸増傾向です。



3 予防接種の接種状況:予防接種歴が確認されたのは41人のみで、他はすべて予防接種歴が無いか、不明でした。特に、男性では95.9%(男性419人中402人)で予防接種歴が確認されませんでした。



4 先天性風しん症候群の発生について:市内では、検索できる2006年1月1日以来報告はありません。全国では、第25週に東京都で新たに1件報告され、今年に入っての報告数は計7件(東京都3件、愛知県2件、大阪府1件、神奈川県(相模原市)1件)となりました。

任意予防接種の助成

横浜市では、平成25年4月22日から9月30日まで、19歳以上の横浜市民で、「妊娠を予定・希望している女性 (注:妊娠中は接種できません、接種後2か月は避妊をしましょう)」、「妊娠している女性の夫 (婚姻関係は問いません)」を対象に麻しん風しん混合(MR)ワクチン1回分の助成(自己負担額3000円で接種できます)を行っています。定期予防接種(MR)協力医療機関で接種可能です。医療機関等、詳しくは[横浜市ホームページ](#)をご参照ください。

【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463
TEL 045(754)9815